

あすなろ通信 41号

編集 NPO法人みよし子育て・学び支援あすなろ

事務局 〒728-0006 三次市畠敷町 36 番地 7

(TEL 0824-55-6301 FAX 0824-55-6302)

発行日 2020年5月17日

今月のことば

努力は必ず報われる。
もし報われない努力があるのならば、
それはまだ努力とは言えない。

王 貞治

新年度の「あいさつ」

「あすなろ塾」塾頭

数学担当 影山 克典

【はじめに】

二〇二〇年度がスタートしました。今年度は「あすなろ塾」設立一〇年目の年となります。

この一〇年目、スタートから大変な状況となつていきます。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、現在、小・中・高・特別支援学校等が臨時休校になっています。そして「あすなろ塾」も休講を続けています。学校の休校は三月初旬より始まり、四月初めに一時中断したものの、五月の今も続いています。「あすなろ塾」としては、三月いっぱいとは地域の中学生の学びの確保を目的に、無料・自由参加の形で「特別学習会」を開催しました。しかし、四月初めの三次市におけるクラスターの発生を機に、学校の休校にあわせる形で、塾の方も休講としています。「命を守る」ことを優先した措置です。

【二つの課題】

しかし、今後の状況は先の見えない混沌としたものとはいえ、再開後の課題については事前に考えておかねばなりません。

課題は二つあります。この「あすなろ塾」は設立以来「経済格差を教育格差にしない」という目標のもと、ここまで活動を展開し

てきました。この目標は今後も変わることはありません。したがってこのようなこれまで経験をしたことのない状況下ではあります。課題はやはりこの状況の中での「生徒の学力保障(進路保障)」と「運営資金の確保」ということになります。

まずは「生徒の学力保障(進路保障)」についてです。学校の方は中学三年生の先行再開や自由登校日の設定、はては九月初業まで、様々なことが取りざたされています。しかし、確たるものは何も見えていません。したがって「あすなろ塾」としては、「命を守る」ことを優先させつつも、補習授業等を含めた臨機応変な対応を覚悟しておくしか、今のところ方策が思いつきません。学力保障のためにはなんといっても学習時間(量と質)の確保が不可欠です。家庭学習で学習時間を十分に確保している生徒ばかりではありませんし、それができない生徒の方が多くいて考えておかねばなりません。感染拡大が収束すればいつか一人ひとりに応じた取り組みを強化したいと思います。いずれにしても「ピンチをチャンスに」できるような取り組みをつくり出していきたいと考えています。

次に「運営資金確保」のことです。新型コロナウイルス感染拡大がもたらす世界的な経済不況はいったいどの程度の深刻なものになるのでしょうか。私ごとではとうてい予想できませんが、少なくとも保護者の方々の収入に一定の打撃を与えることは間違いないと判断できます。また、「あすなろ塾」の運営資金は保護者の方々からいただく授業料だけではなく、地域の方々、企業、行政の支援で構成されています。今回の経済不況はこちらの方にも大きく影響が出る可能性もあります。今年度は今のところほぼ従来通りの資金の確保はできていますが、これが来年再来年となると見通しはたまたない状況です。現実に行行政からの助成金は今年度で終了するとの通告を受けています。今の私たちには保護者の経済的打撃を少しでも緩和し、生徒の学力保障に十分な運営資金の確保の展望は正直ありません。

【おわりに】

今年度の課題、大きくは二つの課題について述べましたが、その両方に今の私たちの確たる展望はありません。ただ、やる気だけは十分にあります。『経済格差を教育格差にしない』を目標とする塾は、今だからこそ必要とされる、それを続けるのは私たちだ」というやる気です。気合いだけで物事がすすめられるほど現実には甘くないことはわかっていますが、やれることをやるだけやり続ける決意です。まさに誰もが初めて遭遇する混沌とした状況のなかではありますが、この決意を表明し、今年度のスタートにおける塾頭としての挨拶とさせていただきます。(五月一日)

二〇二〇年度総会報告

「NPO法人みよし子育て・学び支援あすなろ」の二〇二〇年度総会は、五月十七日（日）の開催予定でしたが、コロナウィルス感染拡大防止のため、書面議決による総会となりました。

二〇一九年度活動報告・事業報告、会計報告・監査報告の承認、二〇二〇年度事業計画及び予算、役員の承認の議案が提示され、全員一致で可決されました。承認された新年度役員は次のとおりです。

理事長 松本 信司（留任）
副理事長・塾頭 影山 克典（留任）
理事・会計 三橋 豊（留任）
理事 瀬川 政博（留任）
理事 守本 秀樹（留任）
監査 深田 俊克（留任）

昨年度、新正会員として高橋良治さんをお迎えしたことを併せてご報告いたします。

今後ともみなさんのご支援、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

合格者の声

昨年度在籍していた三年生全員が希望する高校への進学を果たしました。合格した喜びと高校生になる決意を書いてくれましたので紹介します。

合格の喜び

A

私は、広島県立三次高等学校を受験し合格することができました。入試直前まで志望校が決められず、とても不安でした。学校の先生からは、「今の頭では合格できません。」と言われ、「絶対に合格してやろう。」と思い、普段の勉強時間よりも長く勉強したり、過去問を解いたりしました。私は特に数学が苦手なので、公式を覚えたり、基本の問題を繰り返し解いたりしました。

受験が終わった後はとても不安でした。合格発表の日に見に行つて、私の受験番号があるのを見た時はとても嬉しかったです。

学校の先生を押し切つて受験する高校を変更し、希望通りの学校を受験してよかったと思いました。

合格したら終わりというわけにはいきません。受かったからといって、ほっとせずに勉強をしようと思います。

今とてつもなくHappy!

B

私は、夏休み直前で、あすなろ塾に入りました。理由は二つあります。

一つ目は、前の塾から逃げ出してきたからです。

二つ目は、他の塾に比べて家から近かったからです。入つてからは、最初は馴染めなかった塾も先生やメンバーのおかげで慣れてきました。

そして、迎えた受験期。

もし、あすなろ塾に入っていなかったら家ではやる気が出ず、ぼーっとして、受験に失敗していたと思います。

先生方の分かりやすく丁寧な授業で、わからない教科もこつこつできるようなになったし、得意教科は、知識の幅をもっと伸ばすことができました。

それに、受験期の最終盤で「最後の追い込みウィーク」があつたからこそ、志望校に合格したと言つても過言ではありません。より詳しく入試の内容を知ることができたし、受験上の注意なども分かりました。とても感謝しています。

あと、もう一つの受験期の思い出は、「推し」です。

私にとって「推し」はとても重要な存在だと思っています。なぜなら、少し休憩したいと思った時に、「推し」の動画を見ると、とても嬉しくなったり、元気づけられたからです。もし、高校に行つて、悲しいことがあつても「推し」の動画を見て、また頑張ろうと思います。

高校生になったら

C

私は、高校生になったら勉強と部活動に力を入れたいと思います。私は、中学生の頃に本気で勉強したことがありませんでした。テストでも得意教科以外はあまり良い点数を取ることができませんでした。その

の時はとても悔しかったので、高校生になったら勉強を家でもさぼらず、本気で取り組んで満足できる点数や成績にしたいと思います。

部活動では、毎日の練習を大切にしたいと思います。中学生の頃は、自分の好きなサッカーでさえ「練習がだるい。」とか「めんどくさい。」などと思っていました。さらに練習中に友達と話したり、練習に遅れることもたびたびありました。これらのことを振り返つてみて、高校もこのままだとサッカーもうまくならないし、人として成長できないと思うので高校生になったら部活動も精一杯頑張つて成長できるようにしたいと思います。

高校でやりたいこと

D

私は、最初介護関係の仕事に就きたいと思ひ、三次青陵高校に進んで、生活福祉系列で学びたいと考えていました。しかし、親に「あなたは介護関係の仕事をするより動物が好きだから動物関係の仕事をするれば・・・？」と言われたこともあり、私の今の夢は動物に関係のある仕事をすることに変わりました。

私は青陵高校でビジネス系列を選択し、パソコンを自由自在に操ることができるようになりたいと思っています。そして、動物の仕事に就いて、すぐに動物のケアなどをすることができるようではないので、

事務などを任せられてもできるようなりたいと思います。これがビジネス系列に入ろうと思った理由です。

私は、高校を卒業したら専門学校に進学しようと考えています。そこで、たくさんの資格を取ったり、知識を身に付けたいと思います。だから、高校では全教科はもちろんですが、動物関係の仕事に進むための勉強、ビジネス系列の勉強など、資格をたくさん取ることを目標に頑張りたいです。

合格しました！

E

私は勉強が大嫌いですが、受験があるのでもやむを得ず勉強に取り組みました。私は塾に再び来る前は、まったく勉強していませんでした。十二月初旬に、前に通っていた塾の先生から電話があり、「受験直前だから塾に来て勉強しないか。」と誘われました。親には「参考書毎日二ページ！」などと言われており、そんなことを自分でできる自信がなかったので、塾へ再び入ることにしました。すぐ後ろ向きな動機でしたが、合格することができたので、結果オーライと言えます。

私は吹奏楽をやっていたので、吹奏楽の盛んな学校へ行きたいと思い、今の高校に行くことにしました。面接で吹奏楽に関することが一つしか言えなかったことは結構焦りましたが、無事合格することができました。

受験に関して私が言えることは「慢心したり、油断しなければなんともなる。」ということです。慢心したら実力を100%出し切ることができなくなるので、そこだけは注意して、こつこつと勉強することが大切だと思います。後輩のみなさん、頑張ってください。

受験を終えて

F

私は、三年生になってから、いろいろな人に「勉強、勉強！」と言われ、すごくしんどかったです。「嫌だ、やりたくない。」と思っていたらもう二月で、時間のたつのがすごく早くて焦りました。気づいたときは、遅かったけどそれでも頑張りました。そしてすぐ入試本番で、すごく不安でしたが合格できて、頑張って本当によかったと思います。

私は高校生になったら、勉強を頑張りたいです。三次高校は小テストや模試が多くて、正直ついていけないか心配だけど、ついていけるように勉強を頑張りたいです。そして、中学生のときのように後悔しないようににしたいです。将来の夢もあるので、それを叶えられるようにしたいです。

後輩のみなさんもまだまだだと思っていいたら受験がすぐ来るので、慌てたり、後悔しないように、今のうちに頑張ってください。

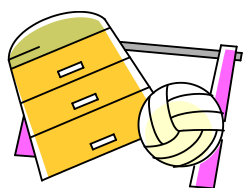
四月から高校生

G

私はこの一年間、特に入試を意識して頑張ってきました。各学期のテストを毎回毎回頑張れたから合格することができたと思います。そのこともあり、学校で推薦ももらい、とても早く合格が決まりました。でも、四月からの高校生活に向けて気を抜かず、四月から三月までも頑張ることができたと思います。高校生になったら、今まで以上に勉強をして、より良い大学や望みどおりの仕事に就けるように頑張りたいと思っています。

九年間続けてきたサッカーもしつかり頑張つて、両立できるようにしようと思っています。四月からは、寮生活することになるので自分の事は自分でできるよう、四月まで色々な事を身に付けていきたいと思っています。

一年生の時に塾に入っていなかったら、勉強をする習慣も身につけていなかっただろうし、模試などをやったから、今自分に何が欠けているかわかって頑張れたので、約二年間たいがい時もあったけど、塾に入っていてよかったと思います。



2020年度 塾生募集

あすなろ中学部

○少人数&個別指導で学べます。

○コースは2種類。

◇英数コース(週2回)

月14,000円

◇理社コース(週1回)

月6,000円

○授業料減免措置があります。

◇ひとり親家庭は半額免除

◇生活保護家庭は英語コース 月2,000円、理社コース 月1,000円

○あすなろ塾は授業料以外の経費(テキスト、模擬試験、夏季講座等)は徴収いたしません。

入塾受付

期間 随時(ただし、火・水・金曜日)

時間 16:30~18:00

場所 あすなろ塾

○電話でも受け付けます。

Tel 0824-55-6301



相模原障害者施設(やまゆり園)殺傷事件判決確定について

松本 信司

二〇一六年七月二十六日に起きた神奈川県相模原市「やまゆり園」殺傷事件は誰もがご存じだと思います。あれから三年八カ月が経ち、二〇二〇年三月三十一日、植松 聖被告は死刑囚となりました。この判決は多分誰もが予想していたと思います。

三月十六日裁判員裁判は求刑通り死刑を言い渡しました。この判決に対し、弁護人は控訴するも本人が以前から言っていた通り、これを取り下げ死刑が確定した事件です。

しかし、何よりも史上最悪とも言える事件が障害者施設で起きたことや、発生から今日まで、十九名の障害のある入所者をはじめ、二十六名の負傷者のほとんどが匿名とされたことを思うとき、この判決の確定によって事件をすべて終わりにしてはならないと強く思いました。

なぜ匿名に？

遺族や家族がなぜ匿名にせざるをえなかったか。重度の知的障害者に対する偏見や差別を受けてきた家族の立場に立って考えなくてははいけません。私も知的障害者の作業所に勤めていますから、家族が置かれている現状について、周りの人

たちはほとんど知らないし知ろうともしません。共存共栄をめざしている私たちは家族や遺族の思いを理解するよう努力をしなくてははいけません。

事件の原因や背景は明らかにされないままに

多くの尊い命を奪う凶悪な犯人になった死刑囚植松被告ですが、根本的な原因や事件の背景は明らかにされないまま裁判は終わりました。競争主義・成果至上主義の社会の風潮が植松被告の言動にどう影響したのかはまったく触れられていないのです。また、判決文には「犯行動機の中核である被告人の重度障害者に関する考えは、被告人自身の本件施設での勤務経験を基礎とし」とあり、その前提となる職員による利用者への虐待事例等を指摘していますが、裁判でこのことが深められることはありませんでした。(今も障害者の施設では多くの虐待事例が報告されています。)しかし犯人である被告人のみを裁くだけでは、今後同様の事件が起きる可能性は充分あると思います。

根底には優生思想が

被告が「障害者是不幸しか生まないから安楽死させるべき」とする犯行理由は、障害のある人に対する人権侵害と差別の根底に流れる優生思想の根強さを改めて浮き彫りにしたと思います。現在、被告の誤った障害者観に対する匿名の賛同が

ネットの世界では拡がりつつあるそうです。そういう意味でこの事件は社会における障害のある人に対する偏見と差別・虐待、施策の遅れの実態を、植松 聖という三十一歳の青年の姿を通して体現した「氷山の一角」に過ぎないのかもしれない。

ご支援していただいている企業・団体

- ・ミヨシ電子株式会社
(三次市東酒屋町)
- ・(株)三次衛生工業社
(三次市四拾貫町)

ご支援にいただいた皆様

- ・瀬川順子 (三次市三良坂町)
- ・匿名 一名 (三次市)



NPO法人あすなろ・賛助会員募集

賛助会員：ボランティア活動は出来ないが、寄付金等でご協力できる企業や個人

個人年会費：1口(5,000円)以上

企業等年会費：1口(10,000円)以上

特典：あすなろ通信送付(年3回発行)

問合せ：あすなろ通信の発行住所と同じ(TEL・FAXとも)